

中山邸跡

明治政府の議定を務めた中山忠能の娘慶子は、孝明天皇の典侍となり、1852 年に皇太子祐宮を産みました。のちの明治天皇である祐宮が 4 歳になるまで育てられた家がこの敷地内に残っています。皇太子が 2 歳のときに起こった日照りにより古い井戸が枯れたため、新しい井戸が掘られ、その井戸が現在も残っています。この新しい井戸は、皇太子の名にちなんで「祐井」と名づけられました。

明治天皇の御製の歌は 10 万首にも及んでいますが、その多くは、次の歌のように、豊かな人生の教訓を含んでいるものです。

あらし吹く世にも動くな人ごころいはほにねざす松のごとくに